

俳句

1年目ステップ5



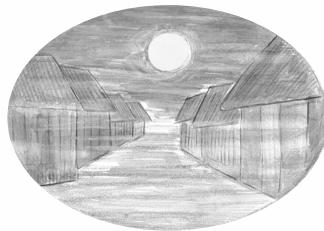
おんせい
音声はこちら

ひとぬ うしろ お ころも
一つ脱いで 後に负いぬ 衣がえ



まつおばじょう
松尾芭蕉

いちなか もの なつ つき
市中は 物のにおいや 夏の月



のざわほんちょう
野沢凡兆

くさ は と ほたる
草の葉を 落つるより飛ぶ 蛍かな



まつおばじょう
松尾芭蕉

どんてん まむしい びん なか
曇天や 蟻生き居る 壇の中



あくたがわりゆうのすけ
芥川龍之介



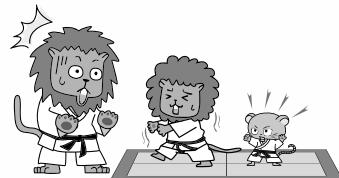
おんせい
音声はこちら

慣用句

1年目 ステップ5

かお どろ
顔に泥をぬる

ひと めい よ きず はじ
人の名譽を傷つけたり恥をかかせること。



あたま かか
頭を抱える

こま ようす
どうしたらよいのかわからなくて困っている様子。



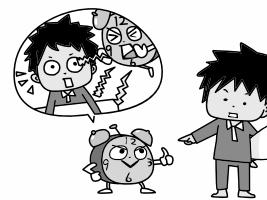
こし ひく
腰が低い

たにん たい ない ど せつ ようす
他人に対してへりくだった態度で接する様子。



ねん お
念を押す

あいて じゅうぶん たし
まちがいがないように相手に十分に確かにめる。



たか
高をくくる

み
たいしたことはないだろうと見くびる。





《体言と用言》

たいげん しゅご めいし だいめいし この二つ
体言は 主語となる 名詞 代名詞 **この二つ**
 ようげん じゅつけい どうし けいようし けいようどうし
用言は 述語となる 動詞 形容詞 形容動詞

どうし どうさ あらわ ことば
動詞は 動作を表す うごきの言葉
 けいようし けいようどうし せいしつ じょうたい あらわ
形容詞 形容動詞は 性質や状態を表すね

ようげん たんご かたち へんかする
用言は 単語の形が 變化する
 かたち かつよう けい
 その形を 活用形
 みぜん(形) 運用(形) 終止(形)
 れんたい(形) 仮定(形) 命令(形)
 の六つです

い 行かない 行きます 行く 行く時 行けば 行け
 と 飛ばない 飛びます 飛ぶ 飛ぶ時 飛べば 飛べ

たいげん 体言 は	しゅご 主語になる ひと 人やものを表す言葉 が多いね	ようげん 用言 は	じゅつけい 述語になる したつづ 下に続く言葉で、 たんご 単語の形がかわるね
------------------------	---	------------------------	--

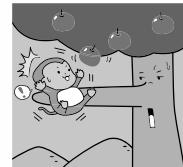


おんせい
音声はこちら

ことわざ

1年目 ステップ5

猿も木から落ちる
その道の達人でも失敗することもあるということ。



郷に入っては郷に従え
新しい環境に移つたらそこの風習に従うのが良い
ということ。



百聞は一見にしかず
人の話を何度も聞くよりも、一度自分の目で確か
めた方が良いということ。



出る杭は打たれる
でしゃばる者や頭角を現す優秀な者は、他から妨
げられたりするということ。



大は小を兼ねる
大きいものは小さいものの代わりに使うこともで
きるということ。



帯に短し襷に長し
中途半端でどちらの役にもたたないことのたとえ。



百人一首

1年目 ステップ5



おんせい
音声はこちら

花はな
のいろ
は
うつりにけりな
わが身みよりな
世よにふるいたづらに
にふるいたづらに
ながめせし間ま
いたづらに
にふるいたづらに
ながめせし間ま
ははあ
あはふう
ふう坂さか
坂さかの
の関せき
（せき
蟬せみ
丸まる）

